

(様式2)

学校関係者評価報告書

愛媛県立宇和島南中等教育学校
学校番号 47

評価実施日		令和7年2月25日(火)	
委員	氏名	所属等	備考
	是澤 祐二	学校評議員(学識経験者)	
	伊勢元芳樹	学校評議員(JR宇和島駅駅長)	
	松為 教輔	学校評議員(名門サカイ株式会社代表取締役社長)	
	武部 洋安	学校評議員(下灘漁業組合代表理事組合長)	
	長野 宏展	学校評議員(宇和島警察署 交通課長)	
	三浦 克文	学校関係者評価委員(宇和島市立明倫小学校校長)	
	田中 多紀	学校関係者評価委員(宇和島ケーブルテレビ 宇和島局 編成制作部長)	
	田中 和代	学校関係者評価委員(宇和島看護専門学校 教務部長)	

評価・提言等	提言等に対する改善方策等
<p>1 今年度の評価等について</p> <p>(1) 学習指導</p> <ul style="list-style-type: none">・ 皆勤率は、数値目標からみるとE評価になるが、この数値目標は妥当なのか。近年の皆勤率の傾向や学年による特徴はあるのか。基礎・基本を定着させるためにも、登校し、授業に出席することの大切さが理解できるよう、引き続き指導にあたってほしい。また、家庭や社会事情も大きく変わっているが、学校へ行きたくなくなる個々の理由や動機の多様性にも目を向け、大切にしてもらいたい。・ ICT機器を工夫しながら的確に活用していることが4段階評価からよく分かるが、生徒の興味・意欲がうまく結びついていないところが見受けられる。ICT機器の利用を苦手とする生徒もいることを配慮しながら、引き続き授業改善に努めてほしい。・ 家庭学習の充実については、例年保護者の評価が厳しい傾向があったが、今年度は良い結果が出ていると思う。家庭学習の時間は、令和5年度と比べてどの学年も増加しているが、家庭学習時間の調査が期末考査中であるので、学習時間が多くなるのは当たり前ではないか。考査期間外に調査してはどうか。 <p>(2) 生徒指導</p> <ul style="list-style-type: none">・ 先生に何もかも任せるのは、もう無理である。生徒の夢の実現のために、専門家を導入したり外部講師なども活用したりすべきである。・ 部活動に関して、他校との連携もしっかり行われているので、今後とも、やりたいこと・目指したいことがしっかりできる体制づくりをお願いしたい。「〇〇部に入りたいから、南へ行く！」というような部活動があればいいと思う。	<p>・ 皆勤率は、コロナ禍以降、低下している。この流れは今後も変わらないことが予想されるが、引き続き学校に登校することの大切さを理解させながら、生徒の主体的な学習態度の育成に努めたい。また、評価の段階A～Eの数値の幅についても検討したい。</p> <p>・ 研修等を通じて、一人1台端末等のICT機器の効果的な活用の習熟に努め、ICT機器の利用を苦手とする生徒にも取り組みやすいように配慮しながら、学習に対する興味や意欲の向上に結びつくよう授業改善に取り組みたい。</p> <p>・ 家学習時間調査については過年度との比較ができやすい日程を確保し、適切な分析ができるようにしたい。</p> <p>・ 様々な諸機関と連携し活用していきたい。</p> <p>・ 昨年より県主導でスタートしている魅Can部について、7年度から本校でも女子サッカー部を魅Can部として活動していくことになる。女子サッカーの活動が他の部にもいい影響が生まれるように学校全体で盛り上げていきたい。</p>

(3) 進路指導

・進学・就職指導の充実が図れている。生徒一人一人の希望に沿った進路に進めるように、個別指導を引き続き充実させてほしい。また、大学進学だけでなく、専門学校や就職希望の生徒にも幅広い情報の提供をお願いしたい。保護者に対しても高等教育の修学支援新制度の情報提供を継続して行い、学ぶ意欲のある生徒の学習の機会を増やしてほしい。

・生徒一人一人の希望に沿った進路実現のため、面接や個別指導をさらに充実させ、情報共有を行いたい。また、各種就学支援制度についての情報提供もこれまでどおり適切に行っていくたい。

(4) 人権・同和教育相談

・教職員のアンケート結果において、「いじめの防止に向けての取組を行っている」という項目では、高い評価が出ているが、自己評価表では「いじめを許さない集団づくり」の項目がCとなっている。学校全体の意識が高く、さまざまな課題に真剣に取り組んでいるのがうかがえる。ただ、4段階評価の割合において、教職員は、4又は3のみであるが、生徒や保護者には、1又は2が若干名いる。いじめや人権に関する問題は、当事者が一人でもいれば大きな課題となるため、未把握な問題はないか、改善できることはないか等、取り組んでほしい。一人1台端末を活用し、悩みを相談できるプラットフォームがあればよいのではないかと。
・いじめ対策について、「居心地の良い学校、環境づくり」とあるが、具体的な内容は何か。また、コミュニケーション不足（企業におけるハラスメント）に陥らないため、相談、会話、対話、連絡などが必要だが、全てに対処する時間はない。もっと専門家を導入すべきだと考える。

・今年度より「学校生活をよりよくするアンケート」は1人1台端末を活用し回答することにしたが、今後も生徒から寄せられる悩みや相談、いじめ等の報告を見逃さず、組織で迅速に対応し解決につなげていきたい。
・SLA、SSW、支援員、病院等の関係機関の専門家とも密に連携を図りながら、生徒にとって“学校が楽しい”、“自分の存在を温かく見守ってくれる仲間がいる”といった居心地の良い学校、環境づくりに努めていきたい。

(5) 健康・安全指導

・生徒の健康管理が適切に行われていることが数値的に分かる。交通安全指導や防災についても同様である。評価及び次年度への改善方策も適切であり、隣接する小学校としては非常時のリーダーシップに期待したい。

・校訓「自主、自律、健康」を生徒一人一人が体現できるように継続した取組や指導の徹底を図りたい。より主体的に活動する防災を目指し、地域の防災リーダーの育成にも努めていきたい。

(6) 図書・視聴覚・情報教育

・昨年度と比べて前期生の貸出冊数と読書冊数が大幅に減少している理由は何か。貸出冊数と読書冊数との差があることから、読書を趣味とする生徒は自ら購入しているのではないかと。地域の書店が減少している中、読書を苦手としている生徒は書店に行く機会も少ないと思われる。年間の図書予算を活用し、その年齢や時流に合った本を図書館に備える取組を強化してほしい。また、「朝読書」の取組は、読書の魅力を感じるきっかけになるため、継続してほしい。
・高い評価が多い項目の中で、「本に親しむ機会」が生徒の自己評価が低い傾向があるが、今回もそうだと思う。SNSに触れる機会が増えるなど読書環境が以前とは随分変わっている。著作者等と呼んで、講演をする等、幅広く検討してほしい。
・読書指導については、やや難しさがあるように感じる。小学校でも読書指導に取り組んでいるが、なかなか読書量は増えない。小学校での取組の大切さを感じる。
・情報リテラシーの教育は必須であり、生徒は良く学んでいると評価している。教科指導におけるICTの活用や生徒のSNSトラブルの防止のため、次年度への改善方法は適切だと思う。

・今年度の前期生は、2年生と3年生の2学年となり、教室から図書館までの距離が遠くなった。図書館までの距離という些細なことであるが、高度情報化社会に生きる多感な前期生にとっては、その距離が本を手にとって読むという行動に少なからず影響を与えたのではと考えている。特に、2年生は昨年度の貸出冊数に比べると今年度はその半分以下である。昨年は、入学当初の4月に図書館オリエンテーションも実施していた。来年度は、図書館利用促進のために学年を問わずオリエンテーションの実施を検討したい。また、年に2回、図書委員が中心となり、「購入希望図書」の呼びかけを各クラスで行っているが、読書に縁遠い生徒の希望もすくい上げられるよう工夫していきたい。引き続き、「朝読書」の取組に加え、学級活動やホームルーム活動、各教科においても積極的な図書館の利用を促し、読書案内のきっかけになるように努めたい。
・図書委員会で実施しているビブリオバトルや本に関する講演、ブックトーク等、幅広く検討し、本や読書について生徒間で気づきを促していきたい。
・「情報」の授業等を活用し、更に情報セキュリティの意識高揚に努めたい。

(7) 業務改善

・働き方改革の成果が分かる。ICT化を図り、ワークライフバランスの向上、長時間勤務削減の効果ができていると感じる。このまま継続して更に向上させるために、週1回だけの超過勤務を目指してはどうか。週1回の定時退勤を目指していくとのことだが、ほぼ毎日、定時では帰りにくい雰囲気があるのか。そもそも超過勤務前提の目標でよいのか。生徒に良い環境で学校生活を送ってもらうには、まず、先生の良い環境づくりが大切だと感じる。

・職員のワークライフバランスは、どの職種においても課題となっているが、一部の者に業務が偏ることもあるため、業務の分散化や不要と思われる業務のスクラップを思い切って行うなど、教職員のストレス軽減を進めてほしい。

2 説明・公表等について

・ホームページには、頻繁に記事が上がっている。生徒たちの生き生きとした活動を知る発信源の一つとして楽しみにしている。特色をアピールしたり注目を引いたりするために、マスコミをうまく利用するのもよいと思う。

3 学校運営への提言

・さまざまな特色ある活動に取り組んでおり、地域の活性化に貢献できていると感じる。その成果を地域住民に発表する機会を設けてほしい。新校開設に向けて、地域とのつながりを更に深めていくとよいと思う。生徒、保護者、地域へ向け、引き続き情報発信をお願いしたい。

・ホームページを見て、新しい南高に「夢」を感じた。なりたいたい自分になるために、しっかり考えて学べる学校だと思った。

・そもそも公立学校では特色ある学校教育の推進は難しいのかもしれないが、他校との具体的な違いが明確でなければ、入学したいとは思わない。今以上の魅力ある学校づくりが必要だと考える。

・そもそも定時退勤ができるような業務量ではないことを、今年度の在校時間調査の結果をもとに説明し、週1回の定時退勤から取り組む意図の共通理解が教職員間でできている。

・業務の分散化は可能な範囲で進めているが、どうしても分散できない仕事もあり、なかなか難しい。現状で不要と思われる業務は今年度中に全てスクラップした。また、ストレスチェックでは、県平均等と比較し、上司や同僚のフォローなど全ての項目で良い結果が出ていたので、来年度はさらに向上させていきたい。

・行事等はこまめに番町記者クラブにお知らせしている。また、Instagramではリアルタイムに近い情報を発信している。今後も継続したい。

・新校開設準備委員会も2年が過ぎ、より具体的な内容を協議する段階である。新しいフライヤーちらしも作成し県内の中学1年生に配布したところである。今後も引き続き宇和島水産高校と連携を図りながら、今以上に地域から信頼され、特色・魅力ある学校づくりを目指していきたい。また、グローバル・アクティビティやボランティア活動を中心に地域住民と関わり、DXハイスクール事業を十分に活用し、地域貢献や地域の活性化につながる取組を進めるとともに地域に開かれた学校づくりに力を入れたい。